

埼玉県野球連盟南部連合会

大会打合せ事項

大会は、本年度公認野球規則、競技者必携に定める規則・取り決め事項を適用して行います。

◎競技運営に関する注意事項

- 1 代表者会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底させること。
- 2 参加申込書提出後の選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。
- 3 ベンチは組合せ番号の若い方を一塁側とする。
- 4 チームの代表者は原則試合開始予定時刻の1時間前までに本部へ受付を済ませ、メンバー表5部を受領すること。
- 5 試合開始時刻になっても受付に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- 6 メンバー表提出時期について
第一試合は開始時刻の30分前、第二試合以降は前の試合の4回終了時または試合開始1時間後に大会本部へメンバー表(登録者全員の氏名とフリガナを記載)を提出して登録名簿と照合を受け、その際、両チームの監督または主将により攻守の決定を行う。
- 7 球場内での練習は外野及びファールグラウンドで行う。バッティング練習はトスバッティングのみ認める。(ゴムボールやバトミントン用のシャトル等のバッティングも禁止) メンバー表提出後の練習は必ず帽子・ユニフォームを着用すること。なおシートノックは行わず、サイドノックを認める。サイドノックのうち内野手はベンチ前を利用して塁間程度の距離でゴロ打球の捕球練習を行うこと。外野手は各塁側の後方のファールテリトリーから安全な方向(例:一塁側は右中間、三塁側は左中間に)に向けてノックを行うこと。ノッカーにボールを渡す選手や野手からの送球をノッカーの近くで捕球する選手及び外野手からの送球を補助する選手(中継者)は、必ずヘルメットを着用すること。
- 8 メンバー表提出後、先発のバッテリーに限りブルペンでの投球を認める。その際は、バッテリーともにユニフォームを着用し、捕手は全て指定された用具を着用すること。
- 9 ベンチ内での携帯電話・PC等の使用を禁止する(スコア用PCのみ認める)。メガホンは1個に限り認める。
- 10 参加申込書に記載されている選手は全員必ず背番号をつけること。
(0~99番までの算用数字であること)
監督は30番、主将は10番とする。
- 11 試合中ベンチに入れる人員は、メンバー登録されたユニフォームを着用した監督・選手25名以内とチーム代表者1名、スコアラー1名、マネージャー1名の3名以内とする。なお、その際はスポーツ行動にふさわしい服装でベンチに入ること。
- 12 試合開始時刻前でも、前の試合が終了した後20分で次の試合を開始する。
- 13 ファールボールはベンチサイドで拾い、球審に届けること。(バックネット前は攻撃側で拾う)
- 14 守備が終わり、最後のボール保持者は、マウンドにボールを置いてベンチに戻ることに。
- 15 雨天の場合でも、球場使用可能な状況の場合は試合を行う。
- 16 雨天の際の連絡はチームより積極的に行うこと。(連絡はチーム責任者のみとする)
- 17 各会場の開場時間は第1試合開始90分前以降とし、それより早く到着した場合は時

間を調整し、会場役員の指示があるまで車両を含め勝手に入場はしないこと。

・決定時間：7：00

連絡先	球 場 名	住所	担当	携帯番号
球場	川口市青木町公園総合	川口市西青木 4-8-1	伊藤 宮代	070-7519-7272
	運動場野球場			090-9100-3592
	川口市前田西野球場	川口市南鳩ヶ谷 5-27-1	本嶋	090-8812-0823

◎用具、装具、ユニフォームの取り決め事項

1 バットとボール

① バット

1本の木材で作った木製バットのほか、竹片、木片などの接合バットであること。
木製については公認制度を適用しない。

金属・ハイコン(複合)バットは、J・S・B・Bマークをつけた公認のものに限る。また、色の制限はないが単色以外の場合は連盟の承認を必要とする。

② ボール

ナガセケンコーボール M号球を使用する。

メンバー表提出時に各チームから3個ずつ提出する。(ロージンバックは各チームの負担・管理とする)

2 装具

① 捕手装具

捕手は危険防止の為、連盟公認のマスク、プロテクター、カップ、レガース、S・Gマークの付いたヘルメット、すべての装具を必ず着用しなければならない。

② ヘルメット

打者・次打者・走者は、連盟公認(S・Gマーク付) イヤーフラップ付きのヘルメットを着用すること。

(ベースコーチは攻撃期間中、コーチボックス内において、ヘルメットを着用しなければならない)

3 ユニフォーム等

① ユニフォーム

同一チームの各プレイヤー(監督・コーチを含む)は、ユニフォーム、帽子は、同色、同形、同意匠、ストッキング、アンダーシャツ、ベルト等は、同色のものを着用しなければならない。

② 胸マークと背番号

胸のマーク名は、日本字またはアルファベットで表示し、チーム名の代わりにマークをつけることができる。ただし、統一しなければならない。

参加申込書に記載されている監督、コーチ及び選手は、必ず背番号をつけなければならない。背番号の規格は、最小限15. 2CM以上。最大限 長さ 21CM

幅 16CM 太さ 4CM 以内とする。

ユニフォームの背中に選手名をつける場合は、全員が背番号の上にアルファベットで姓のみとする。ただし同姓の者がいる場合、名の頭を入れても良い。

◎大会特別規則

1 試合回数と時間

東日本軟式野球大会・高松宮賜杯及び南部連合会会長杯の試合は9回戦、福永健司杯及び県下選抜の試合は7回戦とする。ただし、2時間を超えたら新しいイニングに入らない。

2 試合時間の管理

(1) 試合時間は大会本部が管理し、試合時間を通告する。

(2) 制限時間に達した時は、審判員はそのことを両チームに通告する。

【ケース1】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9		計
A	0	0	0	0	2	0	0	1			3
B	1	0	0	1	0	0	0				2

〔9回戦においてAがリードの8回表に2時間が経過した場合〕

※8回裏の攻撃まで行う。

【ケース2】

チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9		計
A	0	0	0	0	2	0	0	0			2
B	1	0	0	2	0	0	0				3

〔9回戦においてBがリードの8回裏に2時間が経過した場合〕

※2時間が経過した時点で試合終了とするが、その時の打者の打撃中にその旨を両チームに通告し、その打者が打撃を完了して試合終了とする。

3 コールドゲーム

暗黒降雨の場合 5回（4回 2／3）

得点差の場合 （9回戦）5回以降 10点差・7回以降 7点差
（7回戦）5回以降 7点差

4 同点の場合について

(1) 試合が9回戦の場合は9回、7回戦の場合は7回を終了、または時間切れで同点の場合は、タイブレーク（継続打順で無死1塁・2塁の状態ですべての打者がヒットを打つまで続行する）を行う。

(2) 同点のまま、暗黒降雨等で中断及びノーゲームになる回数の時は継続試合とする。

5 指名打者について

すべての大会において指名打者（大谷ルール）を採用することができる。

6 抗議権

監督、当該プレイヤーのいずれか1名とする。

7 種類の異なった球を使用した場合の処置について

（例：M号ボールを使用する試合で他のボールが使用された場合）

発見されるまで行われたプレイは有効とする。ただし、プレイが進行中に発見された時は、プレイが落ち着いた時、正規の球と取り替えるものとする。

8 試合中の禁止事項

(1) 競技場内に素振り用の鉄パイプ、長尺バット等の変形バット及びバット用リングの持ち込みを禁止する。

(2) 投手が手首にリストバンド(サポーターなど)を使用することを禁止する。ただし、ア

ームスリーブについてはアンダーシャツと同色で両袖着用であれば認める。なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要のある時は、球審の承認が必要である。

- (3) 足を高く上げてスライディングすることは、棄権防止の為、禁止する。

現実、これが妨害になったと審判員が認めた時は、インターフェア(守備妨害)で走者をアウトにする。

- (4) 空タッチを禁ずる

走者が進塁の時、野手が空タッチをして、妨害になったと審判員が認めた時は、オブストラクション(走塁妨害)を適用する。

- (5) プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁じる。

- (6) 打者が2塁打を放ち、打撃用グローブのみを取り替えるためのタイムは禁止する。

- (7) 守備側からタイムで試合が停止された時、その間、投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。

- (8) もめごとの際、審判員や相手プレイヤーに手をかけることを厳禁とする。

(万一このような事態が起きた時は、退場を命じる)

- (9) 相手チームや審判員に対する聞き苦しい野次は厳禁とする。また、スタンドでの自チーム側の応援の野次もチームの責任とする。

- (10) 試合中、ベンチ前のキャッチボールを禁止する。

9 試合のスピード化に関する事項

- (1) 投手は初回(救援を含む)に限り、1分を限度として、8球以内の準備投球が許される。次回からは4球以内とする。

- (2) 投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいるときは20秒以内に投球しなければならない。違反した場合、ただちにボールを宣告する。

- (3) 攻守交代は駆け足でスピーディーに行うこと。ただし、投手に限り、内野地域内は歩いても差し支えない。

- (4) 投手と捕手について

ア 投手がサインを見る時は、必ず投手板について見ることを厳重に実施すること。

イ 投球を受けた捕手は、速やかに返球すること。

ウ 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢を取ること。

エ 攻守交代時に正捕手が安全具を装着準備中に投球練習を受ける選手は、捕手用装具を全て着用する。着用しない場合は立って捕球することを認めるがその投球は準備投球数に数える。

オ チップしたボールが最初に捕手の体や用具に触れてはね返ったボールを捕手が地上に落ちる前に捕球した場合はストライクであり、第3ストライクの場合打者アウトとなる。

カ 投手の2塁への偽投に引き続いての送球で塁上に複数の走者がいるときに、2塁に正しく偽投し、投手板に触れたまま連続して他の塁に送球する場合は、投手板をはずさなければならない。はずさなかった場合にはボークとなる。

- (5) 打者について

ア 打者は、投手が投球位置にいるいないに関係なく、速やかにバッターボックスに入ること。

イ 次の打者は、必ず次打者席へ入り低い姿勢で待つこと。投手も必ず実行すること。

ウ 打者は、思うがままにバッターボックスを出入りすることは許されない。

・打者がバッターボックス内で打撃姿勢を取ろうとしなかった場合は、球審はストライクを宣言する。この場合はボールデッドとなり、いずれの走者も進塁できない。

このペナルティの後、打者が正しい打撃姿勢を取れば、その後の投球はその投球によってボール・ストライクがカウントされる。打者がこのようなストライクを3回宣告されるまでに打撃姿勢を取らなかった時は、アウトが宣告される。

- ・打者は、バッターボックス内でベンチのサインを見ること。

(打者が正規に打撃姿勢を取らない時は、投手は打者に投球してはならない)

エ バット全体がフェア地域またはファウル地域に飛んで、守備の妨害になった場合について守備妨害が宣言される。

オ リストバンドの長さは15cm以下とする。

(バッターズボックスルール)

- ① 打者は打撃姿勢をとった後は、次の場合を除き、少なくとも一方の足をバッターズボックス内に置いていなければならない。この場合は、打者はバッターズボックスを離れてもよいが、“ホームプレート周囲の土の部分”を出てはならない。

- 1) 打者が投球に対してバットを振った場合。

- 2) チェックスイングが塁審にリクエストされた場合。

- 3) 打者が投球を避けてバランスを崩すか、バッターズボックスの外に出ざるを得なかった場合。

- 4) いずれかのチームのメンバーが“タイム”を要求し認められた場合。

- 5) 守備側のプレーヤーがいずれかの塁で走者に対するプレイを企てた場合。

- 6) 打者がバントをするふりをした場合。

- 7) 暴投または捕逸が発生した場合。

- 8) 投手がボールを受け取った後マウンドの土の部分から離れた場合。

- 9) 捕手が守備のためのシグナルを送るためキャッチャースボックスを離れた場合。

- ② 打者は、次の目的で“タイム”が宣告されたときは、バッターズボックスおよび“ホームプレート周囲の土の部分”を離れることができる。

- 1) 負傷または負傷の可能性がある場合。

- 2) プレーヤーの交代

- 3) いずれかのチームの協議

なお、審判員は、前の打者が塁に出るかまたはアウトになれば、速やかにバッターズボックスに入るよう次打者に促さねばならない。

ペナルティ①・②

打者が意図的にバッターズボックスを離れてプレイを遅らせ、かつ①の1)～9)の例外規定に該当しない場合、または、打者が意図的に“ホームプレート周囲の土の部分”を離れてプレイを遅らせ、かつ②の1)～3)の例外規定に該当しない場合、球審は、その試合で2度目までの違反に対しては警告を与え、3度目からは投手の投球を待たずにストライクを宣告する。この場合はボールデッドである。もし打者がバッターズボックスまたは“ホームプレート周囲の土の部分”の外にとどまり、さらにプレイを遅延させた場合、球審は投手の投球を待たず、再びストライクを宣告する。

なお、球審は、再びストライクを宣告するまでに、打者が正しい姿勢をとるための適宜な時間を認める。

(6) 内野手の転送球について

内野手間での転送球は、初回のみ1廻りとする。最後にボールを受けた野手は、定位置から速やかに投手に返球すること。なお、試合が遅れているか、天候の状況によって

は、転送球をやめさせることがある。

(7) タイムについて

ア 監督、主将はタイムを要求しないまま、みだりにベンチを出てはならない。

イ タイムを制限する。

- ・試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すなどのタイムは認めない。
- ・タイムは1分間を限度とする。ただし、審判員が認めた場合はこの限りではない。
- ・タイムはプレイヤーの要求した時ではなく、審判員が認めた時である。打者がタイムを要求する時は、投手が投球動作に入る前でなければならない。また、打者は投手が投球動作に入ったらバッターボックスを出てはならない。

(8) 本塁打の打者を迎える場合は、ベンチの前のみとする。

(9) 試合に出ているプレイヤーの代走が認められる場合(コーティシーランナー)

試合のスピード化を図るため、プレイヤーが負傷などで治療が長引く場合は、相手チームに伝え、試合に出ている9人の中から代走(打順の前位の者、ただし投手を抜く)を認め、試合を進行させる。

(10) 試合中断中アピールについて

降雨激しく中断され、中止となる場合に限り、アピールすることができる。

(11) かくし球について

走者がいる時は、球を持たない投手が、プレートのそばでサインを見るような動作をした場合は、球を持たないでプレートについたと見なし、かくし球無効でボークとなる。

(12) 監督またはコーチが、同一イニングに同一投手の所へ行く回数の制限について

ア 監督またはコーチがプレイヤーとして出場している場合は、投手の所へ行くことの制限はないが、協議が長引けば投手の所へ一度行ったこととする。

イ 捕手を含む内野手が、一試合に投手の所へ行ける回数を9イニングの試合にあっては3度以内とする。ただし、監督またはコーチが一緒に行った場合は除く。なお、延長戦(特別延長戦も含む)となった場合は、1イニングに一度行くことができる。

(13) 交代して一度退いた選手は、ウォーミングアップの相手、ベースコーチも許される。

(14) 塁上の走者、及びコーチボックスやベンチから球種などを打者に知らせる為のサインを出すことを禁止する。

その他の注意事項

- 1 チーム責任者は、選手の健康管理(水分補給等)に十分注意してください。
- 2 交通事情をよく勘案して、予定時間には、余裕を持って出発してください。
- 3 試合終了後は両チームでグラウンド整備を行い、ベンチ、ロッカー等は清掃してから退場すること。
- 4 球場内での喫煙・食事は禁止とする。喫煙は必ず球場の所定の場所ですること。